

平成29年度

Specialプロジェクト2020

特別支援学校等を活用した地域における

障害者スポーツの拠点づくり事業

成果報告書

平成30年3月

福岡県

平成29年度 Specialプロジェクト2020（特別支援学校等を活用した
地域における障害者スポーツの拠点づくり事業） 成果報告書

目 次

1 事業実施報告

(1) 福岡県の取組について

2 福岡県の特別支援学校における取組

県立嘉穂特別支援学校の取組

（委託先：オリエンツスポーツクラブ）

県立筑後特別支援学校の取組

（委託先：NPO法人KATT ASIA）

1 事業実施報告

(1) 福岡県の取組について

事業名「特別支援学校等を活用した障がい児・者のスポーツ活動実践事業」

【目標】

特別支援学校を拠点とした、地域の障がいのある子供達及び成人、障がい者スポーツに関心のある人達によるスポーツクラブ（教室）の設立を目指す。

【実施計画】

障がいのある人達が身近な地域で日常的な活動ができるよう、特別支援学校の近隣の総合型地域スポーツクラブを活動主体として事業を実施することとした。総合型地域スポーツクラブは地域住民が自分達で運営し、地域の課題を見つけて公益的な活動しながら多世代・多志向・他種目のチャレンジをしていくというクラブである。本県には7地区において総合型地域スポーツクラブ連絡協議会有り、各地区に1校ずつ障がい者スポーツを行うことができる拠点校をつくることとした。

H28年度1校、H29年度3校、H30年度3校で事業を実施し、7地区全てに拠点校を整備する。

年度	地区	学校	クラブ
H28	北九州市	北九州視覚特別支援学校	北九州スポーツクラブACE
H29	筑豊	嘉穂特別支援学校	オリエントスポーツクラブ
H29	北筑後	小郡特別支援学校	桜花台クラブ
H29	南筑後	筑後特別支援学校	KATTASIA
H30	京築	調整中	調整中
H30	北九州	調整中	調整中
H30	福岡	調整中	調整中

【事業内容】

特別支援学校を拠点とするためには、学校の協力体制が不可欠である。特別支援学校では、障がいに応じた「個別の指導計画」「個別の支援計画」を作成し、毎時間の授業や学校行事等においてそれぞれ必要な支援をしながら教育活動を行っている。総合型地域スポーツクラブが学校の児童生徒・卒業生・地域の障がいのある人への指導を行うためには、学校の教育活動や指導方法を理解しながら、教員との話し合いで本事業の計画を立て、学校と連携協力体制を構築していくようにした。

実施内容は、放課後または休日のスポーツ教室実施や部活動支援、可能であれば授業の中でプログラムを提供したり、TT授業に入りながら個別の配慮や指導方法を理解したりできるようにした。各学校の実態に応じて、教員と話し合っ内容を決めた。

【事業実施の流れ】

県立特別支援学校の校長先生が集まる場で本事業の説明を行い、事業実施に係る協力をお願いした。また、7地区の連絡協議会において本事業の説明をし、趣旨を理解して事業実施を希望するクラブを募った。その中で特別支援学校と総合型地域スポーツクラブをマッチングし、県・学校・クラブの三者で取組内容について協議した上で活動をスタートした。

学校の要望とクラブの得意な活動とをすり合わせ、必要な用具を購入し、随時教員とクラブ間で話し合いながら、活動内容の修正をした。

実行委員会の委員は、専門家、障がい者スポーツ団体関係者、実施校の校長及び担当教員、実施クラブで構成し、学校が抱える課題や地域の課題等について助言を行った。また、年度末に事業実施報告を受け、次年度以降の活動について、各学校の実態に応じた地域の障がい者スポーツクラブ設立に向けて、協議した。

事業実施の状況については、定期的に学校とクラブに連絡を取り、把握に努めた。必要に応じて学校・クラブ間の調整を行った。また、事業の様子を実際に視察し、活動前後に児童生徒の様子や学校・クラブ間の連携等について話を聞いた。

【事業の成果】

- ・各学校の特色に応じた活動が行われ、障がいのある方を対象とした地域の障がい者スポーツクラブ設立に向けて見通しを立てることができた。
- ・学校からは「様々なスポーツ用具を使った活動やプログラムは大変魅力であった」、委託先クラブからは「学校現場における先生の指導の視点や方法について大変勉強になった」という声が聞かれ、総合型地域スポーツクラブと特別支援学校とのマッチングは有効であった。
- ・次年度以降も本事業内容をいかし、以下の事業を継続して実施することとなった。

嘉穂特別支援学校…授業のゲストティーチャー、月1回の放課後教室、学校行事と併せたイベント

小郡特別支援学校…月2回程度の軟式野球クラブ活動及びアダプテッドスポーツ教室
筑後特別支援学校…月2回の放課後教室、学校行事と併せたイベント

【課題】

- ・学校が希望する活動内容を、実施クラブが十分に計画できないこともあったことから複数クラブによるプログラム提供を行うなど、実施主体の対応を検討することが必要。
- ・地域住民の参加を拡大していくために、学校所在の市町村や社会福祉協議会等関係団体との連携を図る必要がある。
- ・クラブ単体ではマンパワーが足りない。市町村スポーツ推進委員や体育協会、社会福祉協議会等とも連携して活動を進める必要がある。

2 福岡県の特別支援学校における取組

(1) 県立嘉穂特別支援学校の取組（委託先：オリエンツスポーツクラブ）

【実施内容】

1. 授業サポート（4回）

＜ふうせんバレー、サッカー指導＞

中学部は縦割りの3グループで授業を行っており、「運動はできるが苦手な生徒」「運動することが好きな生徒」のグループに対して、バランス運動、ふうせんバレー、サッカーの指導を実施した。ふうせんの叩き方、サッカーボールのドリブルの仕方、生徒の実態に応じたルールを設定して指導した。

2. 放課後クラブ活動（24回）

＜アダプテッドスポーツ指導＞

在校生、卒業生、地域在住の障がいのある人を対象に、ターゲットゴルフ、バランス運動、ソフトボウリング、ディスクッターナイン、ポッチャ、ふうせんバレー、フライングディスク、サッカーを行い、その時の参加者に応じて種目を選び、ルールを変更しながら実施した。

【成果】

障がい者スポーツ指導員の資格を有し、ふうせんバレーとサッカーを専門としてチーム指導をしている指導者が、専門性を発揮して児童生徒及び地域在住の障がいのある人に対して指導を行った。授業では、生徒は叩き方によって異なる動きをするふうせんやサッカーのドリブル技術に興味を持ち、熱心に練習する姿が見られた。専門性の高い指導者が指導することで、本物に触れる貴重な経験となった。この事業を通じて、様々な用具に触れることができ、休み時間にも生徒が手に取り、生き生きと活動している様子が見られている。

また、放課後の活動では、在校生だけでなく施設から活動に来る人もおり、集まった人に応じて柔軟に活動内容を設定し、交流の場として余暇活動の充実に繋がった。

【課題】

保護者の仕事の都合で送迎が難しい、放課後デイサービスとの時間調整が難しい等の理由で、放課後活動の参加者が10数名と少なかった。今後は時間を30分繰り下げ、地域や障がい者の親の会などに対する広報により、参加者を募る必要がある。

学校側から学校行事とスポーツイベントを合わせて実施できないかと提案があったが、クラブ側の仕事の都合で日程調整ができなかったため、来年度に向けて調整を行う必要がある。

【今後の活動】

「みらいクラブ」を新規に設立し、学校を拠点にスポーツ教室を定期的、継続的に実施する。地域の障がいのある人のスポーツ環境の整備、障がい者スポーツ用具の充実、指導者の育成を行うとともに、障がいの有無に関わらず地域住民がともに参加できる地域の共生型スポーツクラブ活動を目指して活動する。

また、学校行事に合わせて地域の方とのスポーツ交流を実施する。小学部・中学部に年間6回ゲストティーチャーとして指導を行う。

(2) 県立小郡特別支援学校の取組（委託先：桜花台クラブ）

【実施内容】

1. 授業サポート（小学部6回、中学部6回、高等部10回）

＜サーキット、器械運動、アダプテッドスポーツ指導＞

小学部では、ウォーミングアップでのサーキットトレーニングのプログラムの提供、マットや跳び箱等の器械運動の指導支援を行った。中学部・高等部では、生徒の実態に応じて安全に無理なく活動を行うため、学校側の提案でフライングディスクやボッチャ等のアダプテッドスポーツを実施した。

2. 休日クラブ活動（13回）

＜ベースボールクラブ指導支援＞

ウォーミングアップを中心にプログラムの提供を行い、チーム練習や試合形式においてはメンバーの一員として一緒に活動を行った。

【成果】

障がい者スポーツ指導員の有資格者、車いすテニスのパラリンピアン、各種目の専門指導者がそれぞれの専門性を発揮して授業の指導支援を行った。器械運動の指導支援では、器械体操の専門指導者が指導すると同時に、専門とは異なる種目・競技を他の障がい種別の指導者が指導支援するなど、障がいのある指導者との関わりが地域の中で行うことができた。中学部と高等部には、県障がい者体育大会の種目であるフライングディスクやジャベリックスローなどを行い、生徒が楽しんで活動でき、卒業後の余暇活動としても継続することに繋がった。また、休日のベースボールクラブでは、在校生と卒業生が集まり、指導者がウォーミングアップや練習等でプログラムを提供し、コミュニケーションを取りながら良い雰囲気での活動することができた。

【課題】

桜花台クラブは久留米市の総合型地域スポーツクラブで、小郡特別支援学校は隣の市にあるため、あまり身近には感じられなかったようである。また、学校側が外部の人への施設開放に関して慎重であり、安全面への配慮や児童生徒の実態に合わせた活動を重視したこともあり、クラブと丁寧に話し合いを進めながら実施していく必要があった。

【今後の活動】

ベースボールクラブと併せて体育館の施設開放を検討し、障がいがある人や障がい者スポーツに関心のある人によるスポーツ教室を行う準備を進める。また、クラブの所有するスポーツ用具を学校に貸し出すことで、休み時間等に児童生徒が使用できるようにしたい。

(3) 県立筑後特別支援学校の取組（委託先：NPO法人KATT ASIA）

【実施内容】

1. 授業サポート（10回）

○高等部

＜コンディショニングづくり指導＞

ラダーや半球バランスボール、ミニハードル等を使用した難易度の異なるコースを4つ設定し、総勢150名の生徒が好きなコースを選んで活動した。

○中学部

＜ダンス等の指導＞

ダンスに必要な柔軟性・巧緻性の向上を図る運動指導や、曲に合わせたダンス振り付け指導を実施した。

○小学部

＜コンディショニングづくり指導＞

ラダーやマーカー等を使用した走り方等の身体の使い方指導、ディスクゲッターナイン等のゲーム性を取り入れた運動指導を実施した。

2. 放課後クラブ活動（5回）

＜コンディショニングづくり指導＞

数種類の鬼ごっこ、マーカーを使用したドリル等の活動を通して、有酸素運動、コミュニケーション能力向上を図る活動を実施した。

3. KATTスタジオにて体力向上プログラム（43回）

放課後クラブ活動に送迎の都合で参加が難しい生徒、集団での活動が苦手な卒業生、個人的にもっと活動したい生徒を対象に、有酸素運動、自重トレーニング、チューブトレーニング、バランストレーニング等の活動を実施した。

4. 地域住民とのスポーツイベント（1回）

フライングディスク、ディスクゲッターナイン、ポッチャ、卓球バレー、ラダーコース、ふうせんバレーのブースを設け、グループ毎に一定の時間で移動しながら全てのブースを体験した。

【成果】

クラブには障がい者スポーツ指導員だけでなく、トレーナーの国際ライセンスや健康運動指導士の資格を有した指導員がそれぞれの専門性を発揮して児童生徒に指導を行った。児童生徒には大変好評で、毎回楽しんで活動している様子が見られた。放課後の希望者での活動は、毎回20名以上の生徒が笑顔で汗をかいて活動していた。

また、学校の教員とクラブ間において、児童生徒との接し方や指導の視点を共有できたり、プログラム内容や用具の使用方法等で教員が学ぶことができたりと、お互いに良好な関係を構築できた。

【課題】

放課後は通学バスやデイサービス送迎で児童生徒が帰るため、デイサービス利用の生徒が活動に参加するには保護者の協力が必要となる。また、安全確保（不審者侵入防止）の観点からも課題がある。

総合型地域スポーツクラブの認知度や地域の理解に関しては、まだ低い現状であるため、広報活動の工夫やスポーツ推進委員と協力した活動も行う必要がある。

【今後の活動】

放課後の寄宿舍生対象の活動を継続しながら、地域の方への広報及び参加の呼びかけ、デイサービスや保護者の協力を呼びかけ、参加者を増やしていく。K A T Tスタジオでのプログラム指導や地域でのイベント活動も継続して行う。

【平成29年度 スポーツ庁「Special プロジェクト 2020」】報告書
特別支援学校等を活用した地域における障がい者スポーツの拠点づくり事業

オリエントスポーツクラブ（総合型）
資格：障がい者スポーツ指導員（初）
担当：平塚 富士雄

1) 嘉穂特別支援学校に於いて放課後スポーツ教室日程

《教室日：金曜日 17:00～18:00》（19回）予定

29年 9月	8日・15日・22日・29日
10月	6日・20日・27日
11月	10日・17日・24日
12月	1日・8日・22日
30年 1月	19日・26日
2月	2日・9日・16日・23日

【実施状況】

参加者は、在校生（2名）卒業生（2名）地域障がい者（8名）が中心で参加され、平均10名前後での放課後スポーツ教室となり、思った以上に少なかったと言う現状でしたが、教室の内容としては、色々な用具を活用し、障がいの特性にかかわらず、誰でもスポーツを楽しめる教室を行い良い内容だったと感じています。しかし、今後の課題としては、どう参加者を増やしていくが大きな課題として残りました。

【課題点として】

- ・保護者から仕事の関係で17:00からは参加が難しいとの声。
- ・放課後デイサービスとの時間の調整が難しい。
- ・地域への幅広い声掛けができていない。
- ・保護者にスポーツ教室のアピール企画が必要だった。

【改善策として】

- ・月1回、第2金曜日に固定する事により、仕事の都合をつけやすくする。
- ・開始時間を30分遅らせ、17:30に変更とする。
- ・保護者参加型の学校行事（運動会や文化祭）を活用しアピールする。
- ・地域への幅広い声掛けを行う

～ 競技種目 ～

※その日の参加者の特性に合わせて競技種目を決め、教室を進めていきます。

《 フットサル 》



《 ターゲットゲーム 》



《 平均台バランス運動 》



《 ソフトボーリング倒し 》



《 ふうせんバレー 》



《 フライングディスク 》



《 ボッチャ 》



～学校授業でのスポーツ教室～

日時：11/14 12/12 1/16 2/27 「 13:40～14:20 4回実施 」

参加者：生徒数（12名）指導者（1名）教員（4～5名程度）

種目：「バランス運動・風船バレー・サッカー」

《 平均台バランス運動 》



《 ふうせんバレー 》



《 サッカー 》



～障がい者スポーツ交流会～

日 時：8/20・10/15・2/18（ご家族、参加型）

参加者：障がい児者（平均 20 名）保護者（平均 8 名）

《 ふうせんバレー 》



《 ボッチャ 》



《 ソフトボウリング 》



《 フットサル 》



特別支援学校等を活用した 障がい児・者のスポーツ活動実践事業 ～ 実施報告書 ～

南筑後地区(福岡県立筑後特別支援学校)における取り組み



特定非営利活動法人KATTASIA

はじめに 特定非営利活動法人KATTASIAのご紹介



1. 事業の目的

- (1) 地域スポーツクラブ指導者による障がい者スポーツ指導により、障がい児・者が楽しみながらスポーツに触れる環境整備を行う。
- (2) 障がい者がスポーツを通じて地域住民との交流を図り、相互理解を深める。
- (3) 特別支援学校の体育や運動部活動・クラブ活動の時間において、地域スポーツクラブ指導者の専門的な指導を受けることにより、在籍児、者がパラリンピック種目や競技性の高い障がい者スポーツに触れることができるようにする。

2. 実施期間

平成29年月日～平成30年3月13日まで

3. 業務実施内容

(1) 特別支援学校における障がい者スポーツ実践事業

1

★体育・クラブ活動サポート

隔週火曜日下記のスケジュール筑後特別支援学校に在籍する高等部、中学部、小学部の生徒を対象にコンディショニングを中心とした指導を展開。ボディーコントロール、アジリティー、クイックネスなどの運動能力を向上させるメニューを行った。

- 1時限目 9時20分～9:40分
- 2限目 9時45分～10時30分
- 3限目 10時35分～11時20分

【場 所】福岡県立筑後特別支援学校グラウンド、体育館

【対象者】筑後特別支援学校在籍児

【回 数】隔週火曜日 合計21回

【参加者】延べ1,104名(高等部900名、中学部144名、小学部60名)

【従事者】特定非営利活動法人KATTASIA指導者(延べ27名)



★体育・クラブ活動サポート



★放課後寄宿舎の活動

平日の放課後を利用し、筑後特別支援学校に在籍する寄宿舎で生活する生徒を対象に月1回のペースで体力向上を目的としたコーディネーショントレーニングやレクレーションを指導。毎回60分程度実施した。

【場 所】福岡県立筑後特別支援学校グラウンド

【対象者】筑後特別支援学校在籍児

【回 数】月1回木曜日 合計4回

【参加者】80名

【従事者】特定非営利活動法人KATTASIA指導者(延べ8名)

【プログラム例】

★スタティックストレッチ／ダイナミックストレッチ

★ラダートレーニング

★アジリティ&クイックネス

★トンネル鬼ごっこ

★スポーツ鬼ごっこ など



2

★もえろ！！ちくごスポーツ交流大会

福岡県立筑後特別支援学校体育館を利用し、在籍する生徒、卒業生を中心に地域住民の方々にもご参加頂き、アダプテッドスポーツの認知とそのスポーツ活動を通じた交流を目的に開催。

【場 所】福岡県立筑後特別支援学校グラウンド

【対象者】筑後特別支援学校在籍児・卒業生・地域住民

【開催日】平成29年10月29日（日）

【実施時間】13時～15時（受付 12時30分～）

【参加者】71名

【従事者】特定非営利活動法人KATTASIA指導者7名

ボランティア 4名

（計11名）



★もえろ！！ちくごスポーツ交流大会

2

もえろ！！ちくごスポーツ交流大会アンケート結果

アンケート対象(回答可能の方) 30名

【会場について】

日程 良かった 27 普通 3 悪かった 0
時間帯 良かった 25 普通 5 悪かった 0
駐車場誘導 良かった 26 普通 4 悪かった 0
受付 良かった 28 普通 2 悪かった 0

【競技種目について】

ポッチャ 良かった 24 普通 6 悪かった 0
元気カラダ教室 良かった 27 普通 3 悪かった 0
フライングディスク 良かった 26 普通 4 悪かった 0
ふうせんバレー 良かった 28 普通 2 悪かった 0
卓球バレー 良かった 26 普通 4 悪かった 0

【気づいたこと、感想、要望など】

- ・放課後デイの子ども達と家族一緒の姿や大きな場所でのプレイの数々。私も含め、とても楽しめました。有り難うございます。
- ・小さい子どもも楽しく出来たのでとても良かった。また参加したい。
- ・出来れば年1回ではなく、年に2～3回、そしていつか月1回と継続して欲しい。
- ・とても楽しく障がいのある子どもでも出来るゲームで良かった。
- ・楽しかった。今度は飲み物を持ってきます。
- ・年に1回でなく、もう少し回数を増やして欲しい。
- ・チーム対戦型をしたい。スタッフの対応が良かった。1つ1つゲームが楽しめました。障がいのある人も私達も楽しく過ごせたので良かったです。
- ・普段運動しないのでいい汗がかけました。色んな人に触れあえて良かった。
- ・ゲームでその人の性格が出るな、と思いました(自分も含めて)。
- ・元気カラダ教室が一番楽しかった。またしたいです。
- ・楽しくスポーツをすることが出来ました。機会があれば是非参加したいです。
- ・楽しかったです。
- ・いつもipadに向かっていますが、様々に体を動かすことが出来て楽しんでいたので良かったです。
- ・たのしかった。またきたい。ほかのあそびがしたい。フリスビーであそぶのがたのしかった。
- ・親子4人で体を動かす行事に参加できました。午前中、違う所のスポーツ教室でフライングディスクやふうせんバレーをやっていたので。抵抗なく出来ました。また上の子も日頃ほとんど参加することがないのですが、父親の協力のもと、特にふうせんバレーでは自分でやる姿も見れて新たな一面を見れました。ありがとうございました。
- ・楽しく、時間をあっという間でした。
- ・楽しかった。時間は午前中がいいです。
- ・日程の回数をもっと増やして下さい。

開会式



アキュラシーゴール



ディスゲッター9



ふうせんバレー



元気！カラダ教室



ポッチャ



3

★体力向上プログラム

毎週で個別に運動を実施(パーソナルトレーニング形式)。

ご本人、保護者と相談し、トレーニングプログラムを設定し、様々なトレーニングツールを用いて体力向上を目指した。

【場 所】特定非営利活動法人KATT ASIA

【対象者】筑後特別支援学校卒業生

【回 数】10月～2月 月8回毎週 水・木曜日 合計43回

【参加者】のべ43名

【従事者】特定非営利活動法人KATTASIA指導者(延べ43名)

【プログラム例】

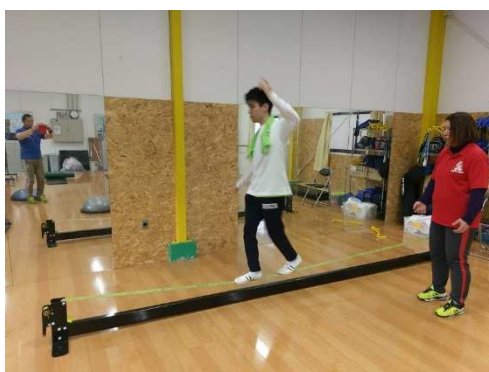
★有酸素運動 エルゴメーター／トレッドミル

★スラックライン(バランス)

★クイックネス(トランポリン／BOSU)

★自体重による筋力トレーニング

★リラクゼーション(ストレッチポール)
など



背景

★当クラブの障がい者スポーツへのこれまでの取り組み

平成20年より健常児と障がい児が運動やスポーツを通じて交流できる運動教室「KID KATT」をスタート。地域のマラソン大会やスポーツイベントにも積極的に参加。平成26年より障がい者就労支援施設「ひまわり」の利用者の方々の体力増強、心身のコンディショニングを目的とした運動指導をサポート。平成28年より「障がい児・者のスポーツ・レクリエーションの基盤づくり活動事業」に携わらせて頂き、「アダプテッドスポーツ」を新たに導入し始めた。

★当クラブと福岡県立筑後特別支援学校との関係

平成28年より在籍児・者、卒業生、地域住民などを対象とした「ちくごスポーツ交流大会」(年1回)を実施。80名を越える参加があり、アダプテッドスポーツを多くの方に知って頂く機会になった。今年度の「特別支援学校を活用した障がい児・者のスポーツ活動支援事業」でも同様のイベントを実施し、筑後特別支援学校の在籍児・者71名のご参加を頂いた。

★本事業に取り組みに当たって

- ①指導者・ボランティアスタッフの確保
障がい者スポーツ指導員の資格を有したNSCA認定パーソナルトレーナー(国際ライセンス)、健康運動指導士などの運動のプロが中心となり、全てのスポーツ活動の基本となるコンディショニングを指導すべく、計画的にプログラムを設定。またイベント時に協力して頂けるボランティアスタッフでプロジェクトチームを構成した。
- ②スタッフの資質向上
常にクラブ内研修を開催し、座学と実技を通じて運動指導法についてレベルアップを図った。また障がい者スポーツ指導員初級養成講習の受講による障がい者スポーツ指導法の理解やその他団体(NSCA)の講習を通じてコンディショニングについての研鑽を積むよう進めた。
- ③他団体、関係機関との連携調整
筑後特別支援学校とのスケジュール及び指導内容の調整を柱に寄宿舍との連携を進め、放課後の活動に充実に努めることが出来た。さらに近隣公立高校のボランティア協力、南筑後教育事務所より事業を進める上でご助言を頂いたり、地域住民の方々の理解を得られた。

今後の課題

★特別支援学校を主体として進める上での課題

筑後特別支援学校への通学手段が通学バスがほとんどであり、放課後のスポーツ活動を実施するには保護者、放課後等デイサービスへの理解と送迎協力を得る必要がある。また、校舎内に寄宿舎があるが、外部の人間が出入りすることは防犯上の問題が生じるため、何か対策を考える必要がある。

★マニュアルの作成・指導者の育成

障がい者スポーツ指導する上で正しく普及、指導するためには障がい者スポーツ指導員養成講習の受講の促進、また地域における指導を進める上で誰もが同じように指導出来るようにするには一律となるマニュアルの作成が必要と考えられる。

★総合型地域スポーツクラブの認知度・地域への理解

障がい者スポーツを普及させていく上でも、実働させる総合型地域スポーツクラブの機能や役割を知らない住民が多い。また、行政もよく理解出来ておらず、地域スポーツや障がい者スポーツの普及には以下のことを徐々に進めていくべきだと考える。

- ① 今後も特別支援学校と連携し、在籍児、または卒業生が参加できるクラブを考え、その後、徐々に一般住民も共にスポーツ活動が浸透していくよう努力しなければならない。
(例. 放課後の寄宿舎利用生徒を対象としたスポーツ教室)
- ② 自治体への働きかけ
- ③ 全員参加型のイベントの開催
(例. 週末、特別支援学校の体育館、グラウンドを使ったスポーツイベントの開催)

★予算・参加費

総合型地域スポーツクラブの運営上で必ず挙げられる課題。当クラブは民間からスタートしたため、受益者負担が基本だが、障がい児・者にとって、参加費徴収が負担になっているケースがある。また、「スポーツ活動は無償である」という昔ながらの認識もあり、有償と聞くと驚き、拒絶されることもあった。こうした認識の変革を進める必要がある

まとめ

背景

★当クラブの障がい者スポーツへのこれまでの取り組み

平成20年より健常児と障がい児が運動やスポーツを通じて交流できる運動教室「KID KATT」をスタート。地域のマラソン大会やスポーツイベントにも積極的に参加。平成26年より障がい者就労支援施設「ひまわり」の利用者の方々の体力増強、心身のコンディショニングを目的とした運動指導をサポート。平成28年より「障がい児・者のスポーツ・レクリエーションの基盤づくり活動事業」に携わらせて頂き、「アダプテッドスポーツ」を新たに導入し始めた。

★当クラブと福岡県立筑後特別支援学校との関係

平成28年より在籍児・者、卒業生、地域住民などを対象とした「ちくごスポーツ交流大会」(年1回)を実施。80名を越える参加があり、アダプテッドスポーツを多くの方に知って頂く機会になった。今年度の「特別支援学校を活用した障がい児・者のスポーツ活動支援事業」でも同様のイベントを実施し、筑後特別支援学校の在籍児・者71名のご参加を頂いた。

★本事業に取り組みに当たって

- ①指導者・ボランティアスタッフの確保
障がい者スポーツ指導員の資格を有したNSCA認定パーソナルトレーナー(国際ライセンス)、健康運動指導士などの運動のプロが中心となり、全てのスポーツ活動の基本となるコンディショニングを指導すべく、計画的にプログラムを設定。またイベント時に協力して頂けるボランティアスタッフでプロジェクトチームを構成した。
- ②スタッフの資質向上
常にクラブ内研修を開催し、座学と実技を通じて運動指導法についてレベルアップを図った。また障がい者スポーツ指導員初級養成講習の受講による障がい者スポーツ指導法の理解やその他団体(NSCA)の講習を通じてコンディショニングについての研鑽を積むよう進めた。
- ③他団体、関係機関との連携調整
筑後特別支援学校とのスケジュール及び指導内容の調整を柱に寄宿舍との連携を進め、放課後の活動に充実に努めることが出来た。さらに近隣公立高校のボランティア協力、南筑後教育事務所より事業を進める上でご助言を頂いたり、地域住民の方々の理解を得られた。

今後の課題

★特別支援学校を主体として進める上での課題

筑後特別支援学校への通学手段が通学バスがほとんどであり、放課後のスポーツ活動を実施するには保護者、放課後等デイサービスへの理解と送迎協力を得る必要がある。また、校舎内に寄宿舎があるが、外部の人間が出入りすることは防犯上の問題が生じるため、何か対策を考える必要がある。

★マニュアルの作成・指導者の育成

障がい者スポーツ指導する上で正しく普及、指導するためには障がい者スポーツ指導員養成講習の受講の促進、また地域における指導を進める上で誰もが同じように指導出来るようにするには一律となるマニュアルの作成が必要と考えられる。

★総合型地域スポーツクラブの認知度・地域への理解

障がい者スポーツを普及させていく上でも、実働させる総合型地域スポーツクラブの機能や役割を知らない住民が多い。また、行政もよく理解出来ておらず、地域スポーツや障がい者スポーツの普及には以下のことを徐々に進めていくべきだと考える。

- ① 今後も特別支援学校と連携し、在籍児、または卒業生が参加できるクラブを考え、その後、徐々に一般住民も共にスポーツ活動が浸透していくよう努力しなければならない。
(例. 放課後の寄宿舎利用生徒を対象としたスポーツ教室)
- ② 自治体への働きかけ
- ③ 全員参加型のイベントの開催
(例. 週末、特別支援学校の体育館、グラウンドを使ったスポーツイベントの開催)

★予算・参加費

総合型地域スポーツクラブの運営上で必ず挙げられる課題。当クラブは民間からスタートしたため、受益者負担が基本だが、障がい児・者にとって、参加費徴収が負担になっているケースがある。また、「スポーツ活動は無償である」という昔ながらの認識もあり、有償と聞くと驚き、拒絶されることもあった。こうした認識の変革を進める必要がある